
宮沢賢治、「銀河鉄道の夜」に存在する研究者の視点

青海 鳩子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

宮沢賢治、「銀河鉄道の夜」に存在する研究者の視点

【Nコード】

N8563J

【作者名】

青海 鳩子

【あらすじ】

研究する立場から見た、宮沢賢治の作品

論文を作成中である。

苦手な英語で書く事もさることながら、苦痛なのはIntroduction部分である。

自分の研究内容を出典された論文に照らし合わせ、過去にさかのぼって関連論文を探していかなければならない。今はEnd Noteという便利なソフトがあるので論文を探し易いが、大昔の研究者はこの作業をいつたいどうやっていたのだろうと思う。たぶん想像を絶するような時間と労力を費やしていたのだろうと推測している。

しかしこの作業についての認識を変えてくれた人がいた。

それは宮沢賢治である。

宮沢賢治はご存じのように多くの童話を書き、その一方で農学校の教師として教壇に立った人である。地質学と農学の研究者でもあった。

その著作の中の一つ「銀河鉄道の夜」は、川で溺れた友人の死に際して、その別離をテーマにした物語である。この作品は賢治の死後に未完成の作品として世に出された。

原稿が途中何枚か消失していたり、賢治が自分自身で削除した部分などが混在しているため、初期形、最終形と形を変えて世に出されている。

その初期に書かれたものの中ではカムパネルラと別れたジョバンニに対し、ブルカニ口博士という人が出てきて、こう言っている。

「……おまえは化学をならっただろう。水は酸素と水素からできているということを知っている。いまはだれだつてそれを疑いやしない。実験してみるとほんとうにそうなんだから。けれども昔はそれを水銀と塩でできていると言ったり、水銀と硫黄でできていると言ったりいろいろ議論したのだ。……」

ね、ちよつとこの本をこらん。いいかい。これは地理と歴史の辞典

だよ。この本のこのページはね、紀元前二千二百年の地理と歴史が書いてある。よくごらん、紀元前二千二百年のことではないよ、紀元前二千二百年のころにみんなが考えていた地理と歴史というものが書いてある。だからこのページ一つが一冊の地歴の本にあたるんだ。いいかい、そしてこの中に書いてあることは紀元前二千二百年ころにはたいていほんとうだ。さがすと証拠もぞくぞく出てくるけれどもそれが少しどうかなくこう考え出してごらん、そら、それは次のページだよ。紀元前一千年。だいぶ地理も歴史もかわってるだろう。このときにはこうなのだ。」

このように、過去の事実だけでなく、その時点での人々の思考の変遷についても歴史の流れとして捉える見方は、研究の背景を説明する際によく用いられる。そして賢治のこの歴史の捉え方は、自分が研究に携わる以前はほとんど理解不能であった。今は読み返してみても、とてもよく理解できる。

過去に様々な研究者が結果を出し、新たな視点や見解にたどりつき、結びつき発展し、それをもとに現在の自分の研究の進め方があるのだということが。そう思うと過去に報告された研究論文ひとつひとつが連結して現在に至っているのだと、畏怖にも似た思いがよぎるのである。

「さあいいか。だからおまえの実験は、このきれぎれの考えのはじめから終わりすべてにわたるようではいけな。それがむずかしいことなのだ。けれども、もちろんそのときだけのでもいいのだ。ああごらん、あすこにプレシオスが見える。おまえはあのプレシオスの鎖を解かなければならない。」

博士は最後にこの謎の言葉を残している。

「プレシオスの鎖」とは何か？インターネットで調べたところ、旧約ヨブ紀の「プレアデスの鎖」のことで、それは「人間の手によって解くことのできないものの象徴であるとされている」という意見が寄せられていた。

私たち研究にかかわる者たちは、日夜この鎖を解こうとしているのだろうか。

四次稿と呼ばれる最終形では、博士は現れないままに物語は終わってしまふ。死の二年前、大病して遺書まで書いた同時期になされた加筆改訂。

なぜ賢治はこの部分を削除してしまったのだろうか。

こんなことはもう自明の理として、あえて載せなくてもよいと思っただのか。

あるいは法華經の熱心な信者であった賢治にとって、科学に対するこの視点が最終的に必要悪だと考えたのかは、新たな謎である。

(後書き)

勤務先の小冊子用に以前書いたものです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8563j/>

宮沢賢治、「銀河鉄道の夜」に存在する研究者の視点

2011年2月16日12時47分発行